明海大学
不動産学部

不動産の話題

# 学生と教員の見方 [66]

## 子育てにやさしいまちづくり②

### 流山市、送迎保育ステーション

# 広がる保育園の選択肢

【学生の見方&考え方】
（4年　小倉大河）

流山市で少子化対策として実施されている政策の一つである送迎保育ステーションに着目した。送迎保育ステーションとは、市内の保育施設への送迎や一時的な保育活動を行う事業のことだ。2005年につくばエクスプレスが開業したことで、ファミリー世帯の転入が多く予想されたが、当時の流山市では需要に合った保育所を設置することが困難であり、既存の保育所を有効的に利用するために同事業が開始されることとなった。

同事業のメリットとして主に次の2つが挙げられるだろう。

1つ目は保育園の選択肢の幅が増える点だ。通常は自宅から近いエリアで保育園を探すことになり保育園の数は限られてしまうが、同事業を活用することで複数の園を検討することができる。25年度の同事業の対象になっている保育園は59園にもなっており、保護者の事情により通わせられなかった保育施設も選択することができる。

2つ目は保護者の負担を軽減できる点だ。送迎保育ステーションは駅前に設置されているため、仕事に電車を使う場合は通り道で預け、帰り道に迎えに行くことが可能になる。そのため保育園に送る時間や労力が不要となり、保護者にとって大きなサポートになる。

しかし、同事業には問題点も挙げられている。その1つは子どもへの負担が増えることである。同事業では専用バスによって保育園の送迎が行われるが、園によっては送迎の時間が30分以上になるなど通う子どもにとってはストレスが大きいものとなる。

2つ目は保育施設と保護者の関係が気薄になる恐れがある点だ。保護者が直接保育園への送り迎えを行わなくなることで、通う保育園の職員との関わりがなくなり、保育園の空気感を直で感じられないことになる。そのため、同事業を活用する場合には、定期面談で顔を合わせる機会を作るなど保育園は保護者との連携を取りやすくするための工夫が必要になるだろう。

【教員による展開】
（西村愛准教授）

送迎保育ステーションは自治体が行う保育サービスの一つであり、現在、流山市だけでなく首都圏では東京と町田市、江東区、世田谷区など複数の自治体で設置されている。

サービスの流れは①保護者が自宅からステーションまで園児を送る。②園児は保育園に行くまでステーションで過ごす。③バスで園児を保育園に送迎する。④保育活動の終了後、園児はバスでステーションに戻る。⑤保護者が迎えに来て帰宅する、というものである。これにより、駅前で朝の送り出しや帰りの迎えができることに加えて、送迎困難なエリアにあるが入園を希望する園でも保育を受けられるようになり、両親の保育送迎の負担軽減が図られるとともに保育園の選択肢が広がるのである。

まちづくりとしてこの送迎保育ステーションを捉える際には、その立地が都市計画上、どのように計画されているかが重要な視点になるだろう。需要を踏まえて適切な場所に送迎ステーションが設置されているのか、また、他の公共サービス施設との併設といった連携が図られれば、より一層、市民の利便性の向上につながる可能性もある。福祉行政と都市行政の連携が重要になるだろう。複数の自治体を対象に都市計画上の位置づけについて調査してみるとより深い示唆が得られそうだ。

【アピールポイント】
音楽を聴くことが趣味です。週末には自宅で映画を観て過ごしたり、音楽のライブなどを観に行くことが多いです。